

## 地域の期待に応える高等学校の在り方 ～地域の中心校としての役割に着目して～

### Research on the Status of the High Schools that Meet the Needs of Local Residents ～Focusing on the Central Roles in the Education in the Local Society～

青山 和弘\* 尾形 友秀\*\*

Kazuhiro Aoyama Tomohide Ogata

#### 概要

今日の高等学校は「地域と協働」することを期待されたり、地域振興の観点から「地域の活性化」の中核になったりすることが求められている。本稿では北海道岩見沢東高等学校の教育活動の具体的な実践を取り上げ、地域における高等学校の役割と地域の期待や生徒の進路希望実現に応える高等学校の在り方として、校訓や学校教育目標の実現のための教育活動等を着実に実施するとともに、地域の中心校として期待されている取組を推進することが重要である。

#### 1. はじめに

北海道は14の管内に分けることができ、各管内には北海道庁の出先機関として総合振興局又は振興局が置かれているとともに、それぞれの管内には道立高等学校が設置され、各地域の高等学校教育を担っている。

そうした高等学校の中でも、総合振興局又は振興局が置かれている市町に設置されている、いわゆる伝統校が教育行政との連携や管内の道立高等学校等の中心的な立場を担っている。その一つが北海道岩見沢東高等学校で、空知総合振興局がある岩見沢市に設置されている。

本稿では、北海道岩見沢東高等学校（以下「岩見沢東高校」という。）の教育活動の具体的な実践を取り上げ、地域における高等学校の役割と地域の期待や生徒の進路希望実現に応える高等学校の在り方について考察する。

#### 2. 学校の沿革・概要

岩見沢東高校は1922（大正11）年、北海道庁立岩見沢中学校として開校し、間もなく100周年を迎える伝統校である。同窓生は2万名を超え、政財界や芸術、芸能、スポーツなど様々な分野で活躍している。

現在は全日制課程普通科（各学年5学級）、定時制課程普通科（各学年1学級）を設置している。

空知管内の中心校として、ほとんどの生徒が上級学校への進学を実現するために入学してきており、

目的意識が明確で学習や部活動等に積極的に取り組んでいる。

生徒会活動では生徒会執行部が活動方針や行事等の原案を作成し、生徒指導部の教師を通じて職員会議への提案を行ったり、生徒会会計の処理については生徒会役員が校長に決裁を仰いだりするなど、生徒会顧問教師の指導の下、生徒会役員の生徒たちが自発的・自治的な活動を行っている。

部活動も盛んで2018（平成30）年度での部活動加入率は96.3%に達しているとともに、多くの部活動が全道大会への出場を果たしており、出場生徒数は約300名（延べ人数）となっている。

2019（令和元）年度卒業生の進路実績（延べ人数）は、国公立大63名、私立大183名、短大4名、各種学校18名などとなっている。

岩見沢東高校は、校訓「一 誠実にして行に表裏あるべからず、一 常に守るところあり喜んで規律に従うべし、一 他人を怯まず自力にて学修すべし」の下、「目指す学校像」と「目指す生徒像」を明確に定め、教育活動等の目標としている。

岩見沢東高校は文武両道の精神を堅持し、旧制中学校以来の歴史と伝統を継承するとともに、空知管内のみならず、北海道の中心的な高等学校の一つとして地域の期待に応えるべく、北海道はもとよりわが国の将来を背負うことのできる有為な人材の育成と地域や近隣高等学校等との連携、高大接続改革の動向を見据えた取組を学校の教育活動全体を通じて積極的に推進している。

\*北海道科学大学全学共通教育部基盤教育グループ

\*\*北海道教育庁学校教育局健康・体育課

### 3. 地域医療を支える人づくり

北海道教育委員会は将来の北海道の地域医療を支える人材を育成するため、2008（平成 20）年に「地域医療を支える人づくりプロジェクト事業実施要綱」を定めた。この事業を実施する背景には、北海道のこれからの地域医療を長期にわたって支えていくためには、地域医療を支える人材づくりが必要不可欠であるとの認識がある。こうしたことから、北海道教育委員会は北海道大学医学部、旭川医科大学、札幌医科大学並びに北海道保健福祉部と連携するとともに、この事業を推進する指定校等を指定して人材育成に取り組んでいる<sup>(1)</sup>。

指定を受けた道立高等学校は「医進類型指定校」となり、医学部医学科への進学を目指す生徒に対して 2、3 学年の数学、理科、外国語等の授業において少人数指導を行う教育課程を編成・実施する「医進類型」を設置することになる。

医進類型指定校が指定されていない管内については、当該管内に 1 校の協力校が指定される。

2019（令和元）年度現在の指定校等は表 1 のとおりである。

表 1 医進類型指定校及び協力校

区分	管内	道立高等学校名
医進類型指定校	空知	北海道岩見沢東高等学校
	後志	北海道小樽潮陵高等学校
	胆振	北海道室蘭栄高等学校 北海道苫小牧東高等学校
	渡島	北海道函館中部高等学校
	上川	北海道旭川東高等学校
	オホーツク	北海道北見北斗高等学校
	十勝	北海道帯広柏葉高等学校
	釧路	北海道釧路湖陵高等学校
協力校	石狩	北海道札幌南高等学校
	日高	北海道静内高等学校
	檜山	北海道江差高等学校
	留萌	北海道留萌高等学校
	宗谷	北海道稚内高等学校
	根室	北海道根室高等学校

医進類型指定校や協力校に指定された高等学校は各管内の中心校であり、これらの高等学校は医学部進学希望者を対象とした、①連携大学の教授等による講演や講義を実施する高校生メディカル講座、②地域の医療機関と連携し、病院を訪問・見学、医師との懇談、医療体験などを実施する地域医療体験

事業などを行う。

このほか、北海道教育委員会は道内の医学部進学を希望する生徒を対象に、夏季休業期間中 4 日間の日程で育大（医師を教育・養成する大学）訪問・見学、ワークショップなどを内容としたメディカル・キャンプ・セミナーを実施する。

こうした取組を通して、地域医療の現状や医師という職業への、生徒の理解を深めるとともに、使命感を育成することを目指している。

岩見沢東高校は 2009（平成 21）年度から医進類型指定校となり、2018（平成 30）年度までの 10 年間で 31 名が医学部医学科へ進学している。

具体的な取組として 2017（平成 29）年度の実践を次に紹介しておく。

#### ・第 1 回メディカル講座

11 月 29 日（水）16:00～17:30

札幌医科大学フロンティア医学研究所

免疫制御医学部門 亀倉隆太氏

亀倉氏（岩見沢東高校卒業生）を講師に招き、22 名の生徒を対象に「耳鼻科臨床医と研究者としてのこれまでの経験、現在の仕事」をテーマとした講演と「医者になるために必要なこと」に関する質疑を行った。

#### ・第 2 回メディカル講座

2 月 16 日（金）15:40～17:40

札幌医科大学 1 年 石垣和也氏

石垣氏（岩見沢東高校卒業生）を講師に招き、11 名の生徒を対象に「医師を目指す皆さんへ」をテーマとした講演と「医学部への進学のために必要なこと」に関する質疑を行った。

#### ・高大病連携医療体験実習プログラム

12 月から 3 月にかけて実施

旭川医科大学、江別市立病院との連携により、江別市立病院体験実習を実施し、3 月に札幌市内のホテルで開催された医療体験報告会に参加して実習の体験と成果等を発表した。

### 4. 地域連携特例校との連携・協力

北海道は面積が広大であるとともに、高校生の通学のための交通機関が十分には確保されていない地域があることから、各学年 1 学級の小規模道立高等学校が 41 校あり、2019（平成 31）年 4 月時点では道立高等学校全体の約 21%を占めている。

北海道教育委員会は地域の教育機能の維持向上や高等学校が地域に果たしている役割の重要性等

を踏まえ、地理的状況等から再編が困難であるとともに、地元からの進学率が一定程度維持されている高等学校を「地域連携特例校」とするとともに、近隣の大・中規模校を「地域連携協力校」に指定し、連携した教育活動等を推進することで教育環境の充実と教育水準の維持向上を図っている<sup>(2)</sup>。

地域連携特例校は 2008（平成 20）年度から導入された「地域キャンパス校」を前身としており、地域連携協力校からの教員の派遣による出張授業の実施や遠隔授業などといった授業に関する連携、合同の学校行事や部活動、生徒会交流などの授業以外の教育活動や教職員の研修などでの連携を行っている。

岩見沢東高校も 2019（令和元）年度から北海道出張高等学校の地域連携協力校として遠隔システムを活用して生徒会同士の交流や外部講師による進路講演会、教職員の校内研修等を双方向で配信するなどして連携・協力を進めている。

## 5. 3 年間を見通した進路計画

### 5.1 「岩東プラン」の概要

「岩東プラン」とは、岩見沢東高校が取り組む 3 年間の進路指導の内容と各時期において生徒が達成すべき目標を明示したもので、系統的・効果的に進路指導を行い、生徒の進路希望実現を図るための 3 年間の進路計画である（次ページの表 2 参照。岩見沢東高校ホームページより）。

学年ごとに時期を数か月単位で区分し、区分した時期がどのような時期なのかを明示するとともに、目標を設定することで生徒に目的意識をもたせるなどして、具体的な行動を促すようにしている。3 年間を見通すことができるように、学校行事、考查・模試等、講習、進路学習、講話、面談、パッケージスタディ（PaS）などをいつどのような内容で実施するかをマトリクスで A4 判 1 枚にまとめることにより、生徒はゴールを見据えた上で自分の現在地を確認することができるようになっている。

なお、設定した目標については、職員室や学年掲示板等に張り出すことにより、教職員も生徒もこの目標を意識して岩東プランに基づいた指導や活動に取り組むことができるようにしている。

岩東プランについてキャリア教育の視点からながめてみると、外部講師などによる各種講話や説明会等とパッケージスタディ（PaS）の実施が興味深い。次に、この二つの取組を取り上げてその概要を

見ておきたい。

### 5.2 講話等

岩見沢東高校では外部講師による講話や出前授業、座談会等を年間 30 回以上実施し、講話等の終了後には希望する生徒を対象に、講師を囲んで 1 時間程度の座談会を設定している。

2018（平成 30）年度に講話等を行った主な講師は次のとおりとなっており、生徒は幅広く、さまざまな分野について学ぶ機会を得ることができている。

司法書士、岩見沢年金事務所職員 博多運輸社長、レインボーハート代表 北海道大学教授、北海道教育大学教授 札幌医科大学教授、筑波大学教授 北海道医療大学教授、立命館大学教授 河合塾職員、ベネッセコーポレーション職員 など
---



図 1 外部講師による出前授業

### 5.3 パッケージスタディ（PaS）

放課後の時間を活用して実施される学習で、発展的な内容を取り上げるハイレベル講習や基礎学力向上のための講習と自習を組み合わせた学習形態である。放課後 15 時 30 分から 16 時 30 分の時間帯に全ての生徒が講習又は自習に取り組むもので、2018（平成 30）年度には年間 12 回実施した。

ハイレベル講習では国語、数学、英語の 3 教科の講習が設定されている。基礎学力向上のための講習は設定されている学年のみで実施する。

岩見沢東高校の生徒は教科書レベルの内容等については概ね理解する力があることから、生徒一人一人が自分の課題を設定し、その解決や上級学校への進学を実現するための実力を身に付けるための機会の一つとしてパッケージスタディ（PaS）を積極的に活用している。



表2 「岩東プラン」(2019年度)

[illegible]

## 6. 考察

ここ数年、高等学校の在り方について「地域との協働」という視点から語られることが多くなった。高等学校にとっては少子化が進行する中で学校の魅力化や社会に開かれた教育課程を実現することにつながり、学校運営の改善や生徒の生きる力の育成に結び付くと考えられる。一方、地域社会にとっては高等学校の持続的な存続とともに、地域の活性化や地域を担う人材の育成など地域振興の核としての役割を期待することができる。

それぞれの高等学校を取り巻く状況や、地域・保護者がどのような期待をもっているのかによるが、高等学校は教育を行うことはもとより、地域活性化のエンジンになるという期待に応えることが求められているといえる<sup>(3)</sup>。

こうしたことを踏まえてこれまで見てきた岩見沢東高校の取組を考察し、まとめとする。

### 6.1 地域における高等学校の役割

表1にあるとおり、医進類型指定校に指定されている高等学校は北海道の各管内の伝統校であるとともに、進学校といわれている高校である。その一つが岩見沢東高校であり、2009（平成21）年度から医進類型指定校として医学部医学科に一定程度の進学者を輩出してきた。広域性という特徴をもつ北海道において地域の中心校が進学実績を維持し、生徒の進路希望を実現させるといふ期待に応えていくことは重要である。

また、都市部以外では小規模校が多く、生徒に幅広い学習機会を確保するとともに、進路希望に応えるためには、高等学校同士が連携・協力することで学習内容を充実させることと学習の質を向上させることが必要である。この点においても岩見沢東高校のように教職員数が多く、かつ複数校の勤務経験を有している教職員の割合が高い高等学校の存在意義は大きい。

岩見沢東高校のような学校は、道内外で活躍・貢献することのできる人材の育成と北海道の高等学校教育の質の維持向上をリードするという役割を果たすことが求められており、こうしたことを踏まえた学校経営と教育活動の実施が期待される。

### 6.2 地域・保護者・生徒の期待に応える進路指導

2017（平成29）年度に実施した校長による教員面談と校内研修を通じて明らかになった課題の一つは「進路目標達成に向けた強い意志をもつ生徒が少ない」というものであった。

このことを踏まえて「目指す学校像」「目指す生徒像」が定められ、それらを実現するために岩東プランが策定された。表2からもわかるとおり、岩東プランの内容は上級学校への進学を実現するためのロードマップといえるものであるが、「目標」に着目するとキャリア教育を通して生徒に育成することが期待されている基礎的・汎用的能力の中でも特に「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を3年間で育成することにつながるものとなっている<sup>(4)</sup>。したがって、岩東プランの策定はそのプロセスを通してそれぞれの実践項目がキャリア教育の視点から見直しが図られ、卒業時の進路希望実現のみならず、社会人、職業人として求められる資質・能力の育成を視野に入れたプランになっていると考えられる。

また、進路指導部が岩東プランを策定したことにより、具体的な取組として取り上げた講話等とパッケージスタディ（PaS）についても進路指導部が主導して各学年団と連携・協力して実施されている。学校運営の観点から見るとそれぞれの学年団主導によるそれぞれの進路指導からの脱却が図られ、キャリア教育の視点を踏まえて学校全体で取り組む進路指導体制の構築が進んだといえる。

### 6.3 今後の方向性

高等学校教育の目的について学校教育法では「中学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育及び専門教育を施す」（第50条）と規定している。各高等学校ではこの目的の下、校訓や学校教育目標の実現のための教育活動等を着実に実施することを忘れてはならない。その上で、「地域との協働」や「地域の活性化」を図る取組を積極的に取り入れることで、高等学校としての存在意義を高めていくことが大切である。

## 参考文献

- (1) 北海道教育委員会：地域医療を支える人づくりプロジェクト事業実施要綱，p.1，2016.
- (2) 北海道教育庁学校教育局高校教育課：地域連携特例校・協力校等取組事例集（平成30年度版），p.1，2019.
- (3) 浦崎太郎：本格化する高校の地域連携―「地域との協働による高校改革推進事業」を中心に―，月刊高校教育8月号，学事出版，pp.32-35，2019.
- (4) 文部科学省：高等学校キャリア教育の手引き，pp.21-22，2011.